



わたしより先に眠った携帯を裏切ったなと月まで放る

見てください都内で人を踏みにじる見えない正義が暴れています 前髪を切ってしまえば鏡には入学したての君がまだある 人生のはじめての日のそのことは口を割らない犬にこっそり 三段に積んだアイスの真ん中みたいに美味しい曖昧な君 真っ白な服が似合わなくなったような気がしてあなたの前じゃ 真っ白な服が似合わなくなったああ懐かしい処女であった身 直接は何も口にはしなかった僕もあなたも臆病者だ 一度だけ目を見て言ったことがあるもう目を見ることもないだろうけど